様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３２６４１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ２２００９

研究課題名（和文）パン・アフリカ主義における「アフリカ」の定義と「人種」概念

研究課題名（英文）The definition of "Africa" and the concept of "race" in Pan-African movements

研究代表者
中尾　沙季子（Nakao, Sakiko）

中央大学・総合政策学部・助教

研究者番号：５０８８３８９９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：コロナ禍や政情不安などで現地調査が十分に実施できなかったため、PAI党員の軌跡をたどる当初の予定を変更し、「アフリカ」と「人種」概念の結びつきを体系化するのに大きな役割を果たしたパン・アフリカ主義運動における「人種」概念の用法に焦点をあて、運動の初期段階である19世紀前半にさかのぼって分析を行った。その結果、奴隷制廃止後の社会における「人種」概念の作用を明らかにするポストスレイバリーの概念をアフリカ大陸におけるパン・アフリカ主義運動の分析に適用するべきであること、その分析においては竹沢の提唱する人種概念の位相のうち「土着の」人種主義（r）と抵抗の人種（RR）とが結びついていることを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまでほとんど分析の対象となってこなかったアフリカ大陸内部における「人種」概念の作用について、奴隷制・奴隷貿易時代からの継続する影響と、人種主義に対する抵抗運動としてのパン・アフリカ主義運動との双方から接近する多角的な視座を提唱した。アフリカ社会を対象とした分析は人種概念の生物学的根拠が否定された現在においても、当該概念がいかに強いインパクトをもって作用しつづけているかを考える一助となる。

研究成果の概要（英文）：Due to the inability to conduct sufficient field research during the pandemic and political instability, the original plan to trace the trajectory of PAI party members was altered. Instead, the focus shifted to the use of the concept of "race" within the Pan-Africanist movement, which played a major role in linking the concepts of "Africa" and "race". The analysis traces back to the early stages of the movement in the first half of the 19th century. The results indicate that the concept of "post-slavery", which considers the ongoing impact of racial views in societies after the abolition of slavery, should be applied to the analysis of the Pan-Africanist movement on the African continent. Additionally, in this analysis, the concepts of " indigenous racial thinkings" (r) and the"Race for Resistance" (RR), as proposed by Takezawa, are interconnected.

研究分野：歴史学

キーワード：人種　パン・アフリカ主義　ポストスレイバリー

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

パン・アフリカ主義運動を対象としてきた研究代表者のこれまでの研究においては、同運動の内部で「アフリカ」観をめぐって齟齬が生じていること、その背後に「人種」概念の作用があることが明らかになった。そこで新たに、「アフリカ」への帰属意識を表明する運動としてのパン・アフリカ主義において、「アフリカ」の定義に「人種」概念がどのように結びつけられてきたのかを分析する必要があると考えた。「アフリカ」にルーツを持つひとびとを「ブラック」と形容し、権利運動の主体としていく過程は竹沢泰子が分析概念として提唱した「抵抗の人種ＲＲ」として理解されるものである一方で、アフリカ大陸内部においては、このような考え方は「外部」のものとして位置づけられてきた。しかし、同じ竹沢の理論にしたがえば、アフリカ社会にも「人種」を想定した社会関係（小文字のｒ）は存在していると考えられ、奴隷貿易や植民地支配によって近代科学的な人種概念（大文字のＲ）や、「アフリカ」にルーツをもつひとびとの連帯をうたうパン・アフリカ主義的なＲＲとの関わりのなかで、それは変化していったと考えられる。本研究ではその変遷に光を当てたいと考えた。

２．研究の目的

アフリカにおける社会関係と「人種」概念の関わりをとらえるうえで有効な事例として、マルクス主義とパン･アフリカ主義を同時に掲げて 1957 年にセネガルで結成されたアフリカ独立党（ＰＡＩ）がある。マルクス主義において階級闘争が反人種主義よりも優位に位置づけられることに対する批判が強まった 1950 年代後半に結成された同政党が掲げていたウォロフ語の標語 Boksareew には、パン・アフリカ主義と並んでパン・ネグリズムという解釈があてられていた。同政党には 1959 年までに 4000 人の党員がいたとされるが、1960 年のセネガル独立直後に活動を禁止され､同国において再度複数政党制が導入される 1976 年まで地下活動を余儀なくされたことから、その活動実態は明らかになっていない部分が多い。本研究は、同政党元党員の軌跡をたどりながら、党員の帰属意識の変化や、党の想定する「連帯」において「人種」的なつながりがどのようにとらえられていたのかを明らかにするものである。

３．研究の方法

地下活動期間が長かったことから、ＰＡＩに関する史料の多くが意図的に破棄されており、活動の実態を解明するには、元党員の証言が重要な手がかりとなる。そこで、まずセネガルにおいて、活動の中心であったダカールとチェス市で元党員たちにインタビューを行い、その活動の実態やリクルート方式の解明をはかる。つづいて、党員の帰属意識の変化を明らかにするため、活動禁止期間中に亡命したメンバーの軌跡をたどり、亡命先のマリやギニアにおける活動の実態解明をはかる。

４．研究成果

本研究の当初の補助事業期間がコロナ禍における渡航制限と重なったため、調査期間を 2 年間延長することとなった。2023 年度には、セネガルのダカールとチェス市で一部インタビュー調査を行うことができたが、その後も域内の相次ぐクーデタや大統領選挙などによる政情の不安

定化が継続したため、期間内にセネガルで継続した調査を行うことも、亡命先のマリやギニアで調査を行うこともかなわなかった。
このため当初の予定を変更し、「人種」概念の形成と受容についての二次文献の整理と分析を進めたほか、「アフリカ」と「人種」概念の結びつきを体系化するのに大きな役割を果たしたパン・アフリカ主義運動における「人種」概念の用法に焦点をあてて分析を進めることとした。竹沢の人種概念を構成する３つの位相において、小文字のｒと大文字のＲの関わりや、大文字のＲと抵抗の人種ＲＲとの関わりについては、いくつかの研究がみられるものの、アフリカ大陸におけるパン・アフリカ主義の展開に関しては、小文字のｒと抵抗の人種ＲＲとの連関が特徴といえる。また、この連関を明らかにするために有用な分析概念として、奴隷制廃止後の社会における人種概念の作用に意識を向けたポストスレイバリーの概念がある。この二つのアプローチに基づいてパン・アフリカ主義の歴史を再考する試みとして、本研究は新しい視座をひらくものである。補助事業期間中に行ったセネガルおよびガーナで行った調査の分析にはさらなる時間を要するが、理論的基盤は、国際ジャーナル『Esclavages&Post~Esclavages』の特集号「パン・アフリカ主義、（ポスト）スレイバリー、人種」として 2025 年度中に刊行予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Sakiko Nakao
２．発表標題 Decoloniser l'histoire africaine? Entre projets panafricains et orientation nationaliste
３．学会等名 Colloque international "l ’ Unite africaine : Entre Panafricanisme et Integration Regionale"（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Sakiko Nakao
２．発表標題 Africa for Africans and Asia for Asians? An imagined transimperial alliance for racial resistance
３．学会等名 African Studies Association Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計3件

１．著者名 Sakiko Nakao	４．発行年 2023年
２．出版社 Karthala	５．総ページ数 331
３．書名 Nationaliser le panafricanisme	

１．著者名 竹沢 泰子、ジャン＝フレデリック・ショブ編; 福崎裕子・中尾沙季子・門田健一訳	４．発行年 2022年
２．出版社 京都大学学術出版会	５．総ページ数 422
３．書名 人種主義と反人種主義	

１．著者名 Anais Angelo	４．発行年 2021年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 240
３．書名 The Politics of Biography in Africa	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会 Centenaire du Pr. Joseph Ki-Zerbo	開催年 2022年～2022年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関